はじめに

20世紀後半の日本は、欧米諸国を追いかける形で経済発展を遂げてきました。
社会制度においても同様で、年金・医療・介護の仕組みを整備するにあたっても、高齢化が進みつつあるヨーロッパ諸国が常にそのお手本でした。

しかし、21世紀に入り日本人の平均寿命は世界一になりました。加えて長寿化と少子化の結果、高齢化のスピードも世界最速となり、2030年には日本人の3人に1人が65歳以上となります。

人類の悲願であった長寿を世界に先駆けて達成し、人生90年時代を迎えた日本のお手本は、もうどこにもありません。
日本が世界のモデルとなる豊かな長寿社会をつくりあげるためには、まず自国の高齢者をとりまく現実と、その課題の把握が不可欠となっています。

この冊子では、日本と世界で老いることの実態とその課題を整理してみました。

「日本で老いる」現実を知るにあたっては、家族関係や住まい、健康状態や医療・介護の姿、そして社会との関わりや経済状況など、多岐にわたる側面から様々なデータを用いたアプローチを行っています。

また、世界の高齢者の暮らしはどのようなものか、ILCグローバル・アライアンス加盟国の、フランス、イギリス、アメリカの高齢者の暮らしの姿とその課題を、様々なポイントごとに整理して日本の実態と比較してみました。

本書の作成に当たっては、公的な統計だけではなく、20年以上にわたり培われたILCグローバル・アライアンスのネットワークによる最新情報を用いましたが、単にデータや情報を羅列するだけではなく、できるだけ暮らしの具体的なイメージが想起できるように、工夫をしてみました。

日本と他の国の高齢者をとりまく現実とその課題を知ることで、私たちが今考えなければならないことが見えてくると思います。

豊かな高齢社会の実現に向けた、議論の一助としていただければ幸いです。

国際長寿センター（ILC−Japan）